

学校部活動検討委員会を開催しました～令和6年度以降の部活動について～

日時 11月28日(火) 18時～

場所 視聴覚室

参加者 ○体育文化後援会会長・副会長 OPTA会長・副会長 PTA1年部長・2年部長
○運動部(9)、美術部、吹奏楽部、学芸部、水泳競技、バドミントン競技代表
(1・2年生の新チームの代表) 檜森校長、小林教頭、中村主任主査、小森(部担当)

本校は令和元年度に常盤中と統合したものの、生徒数は減少の一途をたどっています。令和元年度は、11学級でスタートしましたが、令和6年度は7学級に減少する見込みです。そのため来年度は、職員数が今年度よりも2～3名減となるかもしれません。今後は年度によって全校6学級～8学級を繰り返す生徒数になります。そのため、全校で6学級の年度も担当職員がついて活動できるように計画的に部活動数の削減が必要な時期となりました。

部活動の存続については、生徒や保護者にとっても深刻な問題であり、令和2年度から運用している「部活動の精選に向けての内規」に関しても見直しが必要な時期となりました。(下記の内規)

そこで、学校部活動検討委員会を開催し、東雲中学校の現状や課題、今後の在り方等について私から説明しご意見を伺いました。美術部と学芸部の生徒にも私から直接説明しています。

少子化に伴う影響(生徒数と職員数)

①部員不足

②部数より教員が少なくなる可能性(学級数で先生の配置人数が決まるため。)

※来年度から現小学校1年生あたりまでは各学年2学級+特別支援学級(6学級～8学級の繰り返し)10年後は学年1学級時代と思われます。

現在8学級 →学級数+5名 13名+2名 15名(今年度は特別2名配置)

令和6年度以降の予想職員数(現行の法律による)

8学級の場合→学級数+5名 13名+0～1名? 13名～14名

7学級の場合→学級数+4名 11名+0～1名? 11名～12名

6学級の場合→学級数+4名 10名+0～1名? 10名～11名

③部活動募集数の変更と全員加入制の中止について

・内規②(部員数ゼロ)より6年度から男子テニス部の募集中止(廃部)

・学芸部、美術部。→職員の減少により将来顧問を配置できなくなるため6年度から新入生の募集を中止。現部員は入部可

※学芸部は現2年生の6年度夏季地区総体終了まで。美術部は現1年生が終了する7年度まで活動を継続したい。

・地域クラブ、学校部活動どちらにも参加しない帰宅部生徒をなるべく出さない

・ソフトボール部は能代市で地域移行に向けて取組中であるが、現1年生の活動終了までは学校で部担当者を配置して様子を見ていく。その後は活動の状況を見て判断していく。

・卓球部は将来的に男子か女子一つにしたい。(職員1名しか配置できなため)

④体育文化後援会の予算について

今後は部活動の地域移行がすすむと考えられるので、学校の部活動加入者と地域クラブ加入者、部活動に所属しない生徒の集金額を異なるものとして案を作成する。

2月の役員会を経て、来年度のPTA総会に予算案を出したい。

<部活動の精選に向けての内規(現在)>

①部活動の数は増やさない。

②運動部、吹奏楽部、美術部は2年続けて入部なしとなった場合、次年度からの募集を停止する。

③学芸部は、全員加入制を廃止する場合には在り方を別途協議する。

④募集停止しても、在籍者がいる場合、最終大会が終了するまでは存続させる。

⑤部活動の数が一定数減少し、適正化した後については、新たな内規を作成し運用する。

(令和2年5月1日施行)